

抗がん剤治療を  
受けられる方へ  
【ハラヴェン療法】



さいたま赤十字病院

## どんなお薬を使うの？

抗がん剤には、がん細胞に対する作用の違いから、たくさんの種類のお薬があります。

今回の治療には『ハラヴェン』というお薬を使用した単独療法を行います。

### ハラヴェン

『ハラヴェン』は、三浦半島で採取されたクロイソカイメンから取り出した成分で作られた日本生まれの抗がん剤です。

このお薬は、がん細胞が分裂する際に現れる「微小管(びしょうかん)」に働きかけ、がん細胞の分裂を阻止する作用をもっています。

当院で使用するお薬は、  
一般名：エリブリン  
商品名：ハラヴェン®  
略号：—



# 投与スケジュール

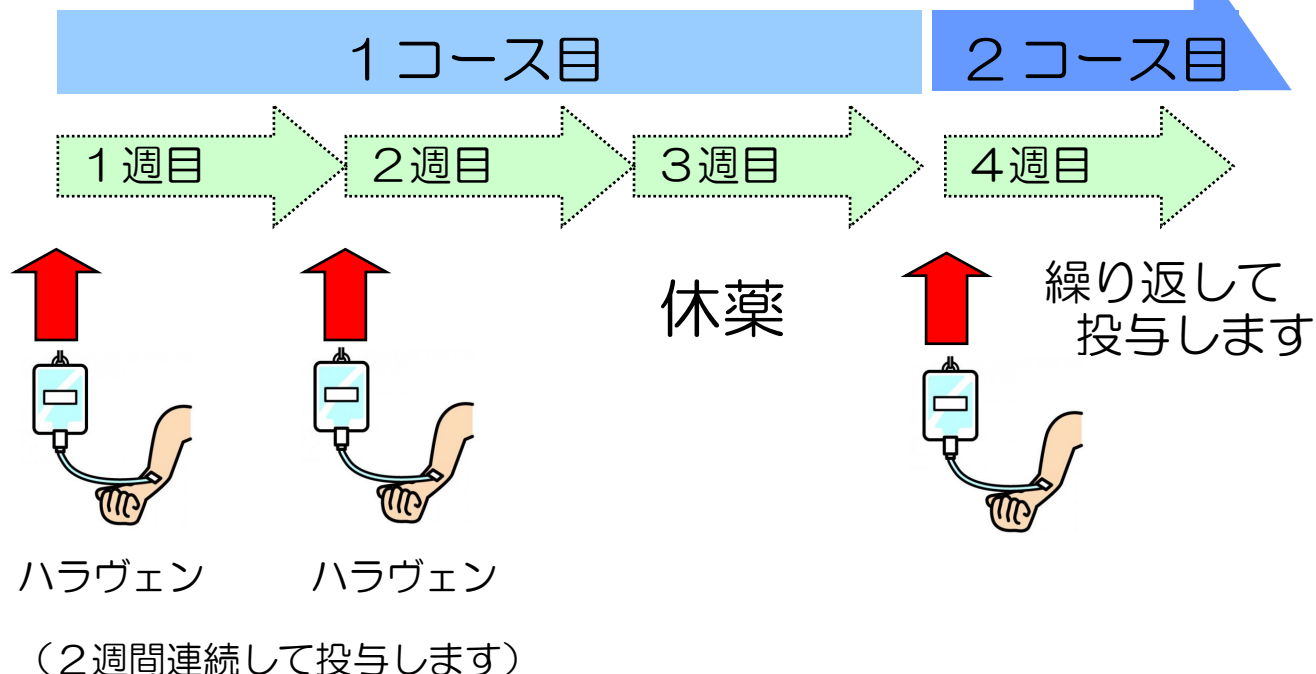
## ハラヴェン療法



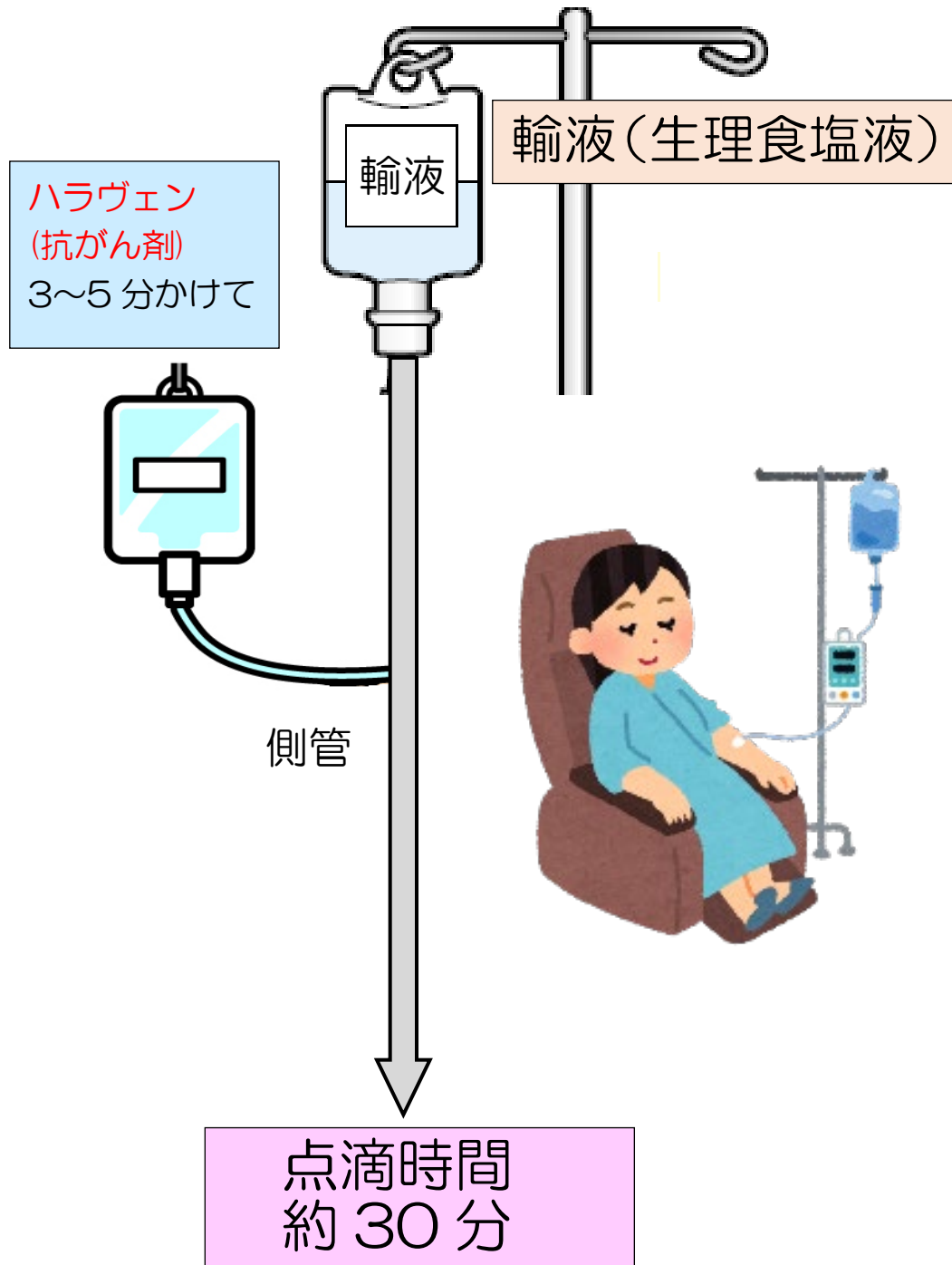
### 標準的な投与スケジュール

通常、3週間を1コースとし、その間、週1回の投与を2週間続け、3週目はお休み（休薬）といった方法がとられます。効果が続く限り、これを繰り返します。

なお、体調によっては隔週投与にしたり休薬や減量する事もあります。



## 点滴当日のスケジュール



## 点滴を受ける際の注意

このお薬は点滴注射の際、わずかな漏れでも皮膚に障害をおこすことがあります。点滴注射中は下記の点にご注意ください。

- お薬が血管の外に漏れないよう、点滴注射中は安静にしてください。
- 点滴注射中に注射部位が腫れたり、痛みや灼熱感(焼けるような熱さ)を感じたりする時は、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。
- 点滴注射中にかゆみや発疹、火照り感、胸苦しさ、吐き気、腹痛など、少しでも気分が悪くなったら、我慢せずに、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。



## 予想される主な副作用と対策

副作用には個人差があり、種類や程度もさまざまです。以下に予想される副作用とその対策についてご紹介しますので参考にしてください。

### 吐き気・嘔吐・食欲不振



吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状は、薬剤が消化管粘膜や嘔吐中枢を刺激することで起こります。このお薬による吐き気や嘔吐は軽いと考えられており、吐き気を抑えるお薬は使用しません。なお、症状や程度には個人差があります。辛い場合には医師に相談しましょう。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

- 嘔吐が1日に何回も起こる。
- 嘔吐のため水分や食事がとれない。
- 吐き気が長期にわたって続いている。
- 吐き気のため、吐き気止めを飲むことができない。

## 骨髄抑制

血液の中には白血球、赤血球、血小板という3つの成分があります。これらは骨髄という、いわば血液生産工場で作られています。骨髄の機能が抗がん剤の影響を受けて低下することを骨髄抑制といいます。

### 白血球の減少



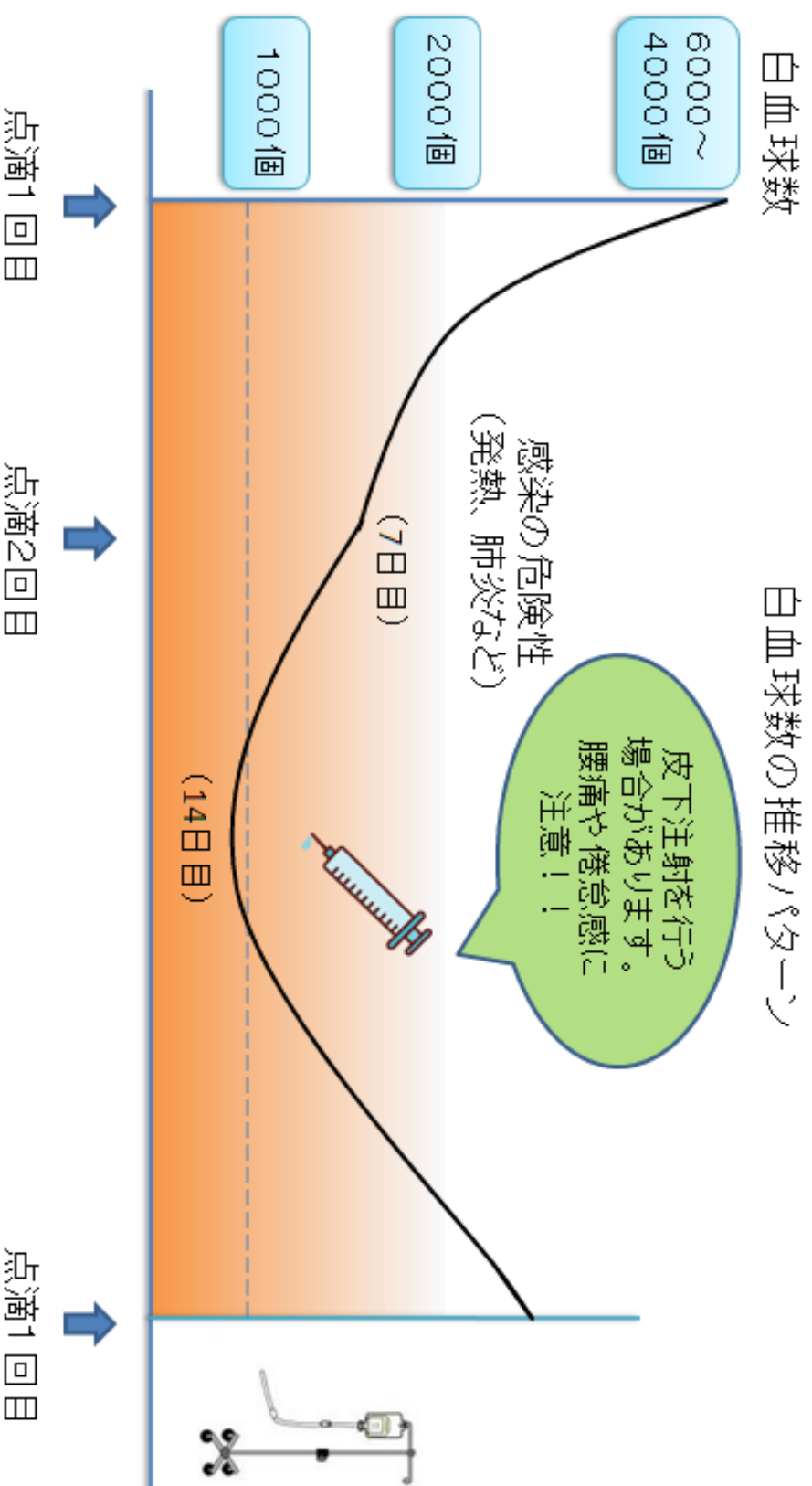
骨髄抑制により、細菌から体を守る役割を担う白血球(特に好中球という成分)が一時的に著しく減少し、体の抵抗力が低下して風邪や肺炎などの感染症が起こりやすい状況になります。1回目の点滴で下がり、さらに2回目の点滴で下がります。その後もとの値に戻りますが、点滴後1~2週間ぐらいは感染しやすい時期ですのでとくに注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

#### 感染症の徴候

- 37.5℃以上の熱が持続する。
- 寒気がする。
- せきが出る。
- のどの痛みがある。
- 頻尿、排尿時の痛み
- 軟便、下痢が続く。

# 骨髓抑制とは？





白血球がかなり減少している場合、白血球を増加させる薬剤を使用する場合があります。また、感染症の可能性がある場合、抗生物質などを使用することもあります。

### 感染症を予防するための対策



- 外出から戻ったときや、トイレ、食事の前後は手をよく洗い、こまめにうがいをしましょう。
- 外出時はマスクを着用し、できるだけ人混みは避けてください。また、風邪などの感染症にかかっている人には近づかないようにしましょう。
- 歯を磨くときは、口の中を傷つけないように、柔らかく清潔な歯ブラシを使ってやさしく磨きましょう。
- 短時間の手早いシャワーを浴びるなどして、身体を清潔に保つようにしてください。
- 排便後の肛門周囲を清潔にして傷などをつけないようにいねいに扱ってください。
- 皮膚に小さな傷がついた場合は放置せずに、消毒剤をつけるなどして、十分手当てをしておきましょう。
- 刃物を使う時、アイロンがけや、料理の時の火傷などに気をつけましょう。
- 主治医に相談せずに予防接種を受けないようにしましょう。

## 赤血球の減少



全身に栄養(酸素)を運ぶ役割を担う赤血球を一時的に減少させ、全身の酸素量が低下してめまいや息切れなどの貧血症状が起こりやすい状況になります。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

貧血の徴候

● 疲れやすい。

● 息切れ。めまい。頭重感

● さむけ。

## 血小板の減少



血液を固まらせる役割を担う血小板を一時的に減少させ、鼻血、内出血、歯ぐきからの出血などの症状が起こりやすい状況になります。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

血小板減少の徴候

● 鼻血が出やすい。

● 青あざがでやすい。

● 歯ぐきから出血しやすい。

● 血が止まりにくい。

● 血尿。

## 脱毛



治療を開始して2～3週間過ぎた頃より、脱毛が起こりやすくなります。なお、このお薬は比較的脱毛の程度は少ないといわれていますが個人差のある症状です。脱毛は、髪の毛だけでなく、眉毛、まつ毛など全身の体毛におこることがあります。脱毛は治療による一時的な副作用です。回復は比較的早く、治療終了後しばらくすると生え始め、約6ヶ月程度で回復します。

最近、脱毛をサポートするグッズも充実しています。  
お悩みの際は、医師または看護師にご相談ください。

## 脱毛の対策



- シャンプーは刺激の少ないものを選びましょう。
- ヘアブラシはやわらかいものを使いましょう。
- ヘアドライヤーの設定温度は低めにしましょう。
- 髪を染めたり、パーマは避けましょう。
- 治療前にあらかじめ髪をカットしておきましょう。
- ウィッグのほかに、帽子、バンダナ、スカーフを活用しましょう。

## 口内炎



口内炎は治療を開始して5～14日目頃より、口の中がヒリヒリする症状が出てくることがあります。

口内炎ができると舌や口の粘膜があれたり潰瘍ができて、食べ物がしみたり、口の中が腫れたりします。

口内炎は確実な治療法がないので、予防がもっとも大切です。口内炎のほとんどは治療終了後に回復します。

口内炎がひどくなると、食事がとれず体力が低下する場合があります。口内炎ができたなら、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

## 口内炎の予防と対策



- 食後は歯ぐきを傷つけないように柔らかい歯ブラシで、きちんと歯を磨きましょう。
- 外出から帰宅した時、毎食後、ねる前に水または医師から処方されたうがい薬でまめにうがいをしましょう。
- 熱い食事は口や喉に刺激となるので、冷たい物や室温程度に冷めたものを食べるようにしましょう。
- 酸味の強いもの、スパイスをきかせたもの、塩辛いものは、なるべく食べないようにしましょう。

## 手足のしびれ



お薬を投与して3～5日後ぐらいから、手や足がしびれたり、刺すような痛みがあったり、感覚が鈍くなったりすることがあります。これは手足の神経細胞が傷害されるために起こると考えられています。

また、以前の治療でしびれ感が残っている方は、進行する可能性もあります。

上記のような症状が出現し、**気になる時は我慢せずに医師または薬剤師、看護師に相談しましょう。**

しびれ感や痛みが継続したり、日常生活に支障をきたす場合は、お薬を減量したり、一時休薬したりします。

また、症状によりビタミン剤や鎮痛剤、漢方薬を使用する場合があります。

手足のしびれを防ぎ、重くならないために



- 重いものはなるべく持たないようにしましょう。
- 転んで怪我をしないよう注意しましょう。
- つらい時は無理せず、家族の方に手伝ってもらおうようにしましょう。
- 温感が鈍るので、特に火傷などに注意しましょう。

## 下痢



下痢は治療を開始後すぐに起こるものと、数日から2週間頃に起こる場合があります。

これはお薬が腸管運動を活発にしたり、腸管の粘膜を障害するために起こります。

1日に何回も下痢をしたり、水分も摂れない場合は、我慢せずに、**医師または看護師に連絡をしましょう。**

### 下痢が続く時の対処



- 乳製品、香辛料を使ったもの、脂っこいもの、食物繊維の多いもの、匂いの強いものは避け、なるべく消化のよいものを取りましょう。
- 脱水症状になるのを防ぐため、スポーツドリンクなどで十分に水分を取りましょう。

## 便秘



便秘は、お薬による場合もありますが、食事の影響や運動不足が原因の場合もあります。

### 便秘が続く時の対処



- 水分を十分とり、食物繊維の多いものを取りましょう。
- 軽い運動をする様に心がけましょう。

## 肝機能の悪化



肝臓の働きを悪くさせる可能性があります。治療中は定期的に肝臓機能の検査をしながら続けていきます。

主な自覚症状

●強い倦怠感

●黄疸

●吐き気 など

## 倦怠感



治療を開始して数日後からからだが重い、疲れやすいといった倦怠感を感じることがあります。

原因は明確ではありませんが、化学療法に伴う一時的な副作用で、病状が悪化しているわけではありません。

## 【まれだが、注意が必要な症状】



## 間質性肺炎

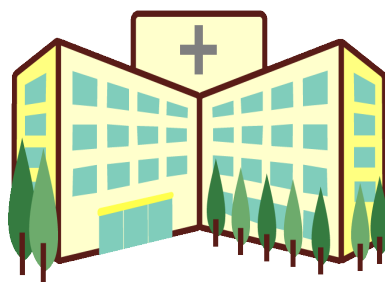


抗がん剤が原因で起こる肺炎です。症状としては、「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦くなる」、「空咳が出る」、「発熱する」などがみられます。早めに主治医へ連絡してください。

以上が代表的な副作用ですが、これ以外にも予期せぬ副作用があらわれることがあります。

気になる症状やいつもと違う症状がある場合は、どんな些細なことでも我慢せずに医師または看護師、薬剤師にご相談ください。

現在使用している薬と相互作用はありません。



連絡先(平日 8:30~17:00)

〒330-8553

埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5

TEL : 048-852-1111 (代表)

乳腺外科外来(医師)

外来化学療法室(看護師)

薬剤部(薬剤師)